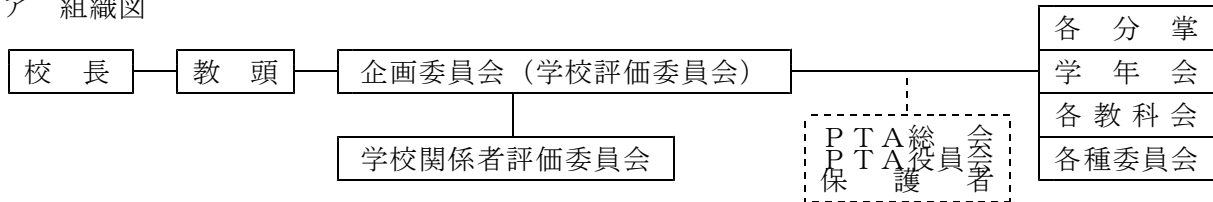


# 令和3年度の全日制学校評価（目標）

## (1) 学校評価のための組織

### ア 組織図



## (2) 学校評価の年間計画

- ア 年度末に当年度の学校評価について総合評価を行うとともに、次年度の課題や重点目標について立案する。
  - イ 年度の中間期（10月）に、学校評価委員会で中間評価を行い、当年度の課題や重点目標の達成度について検討する。
  - ウ 学校評価について、中間評価や総合評価をP T A役員会やP T A総会において保護者に説明する機会を設ける。
  - エ 学校関係者評価委員会を年度末に実施
- (3) 本年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>ア あらゆる教育活動をとおし、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。</p> <p>イ 「授業参観週間」「高校生のための学びの基礎診断」「牧高パワーアップアンケート」の活用と教科主任会のリーダーシップにより、誰もが「よい授業」を目指す本校の文化を維持する。</p> <p>ウ 教科書採択の討議をはじめ新学習指導要領についての学びを深めるとともに、校内体制の最終点検を行う。</p> <p>エ 創立100周年に向けた取組を活用し、地域への積極的な発信に努め、さらに地域への還元に取り組むことによって「残る高校」を目指す。</p> <p>オ 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高め、多忙化解消を推進する。また、困ったときに助け合える人間関係づくりに努める。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
<p>学習指導（教務部） （各教科会） （各学年会）</p>	<p>授業に臨む態度の育成 （学校評価アンケートにおける「先生方は、家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業準備の定着を図る。</li> <li>・チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。</li> <li>・授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会を柱に、教員間の連携を取り合って、授業規律を守らせる。</li> <li>・学習ガイダンスを通して、生徒に学び方をしっかり伝え、授業に対する取組、家庭学習に対する取組を前向きに実践させる。</li> <li>・体裁を整えるだけの作業ではなく基礎学力を定着させるために必要な学習を具体的に丁寧の説明し、実践させる。</li> <li>・学年会、教科会と協力して生徒の家庭学習の実態を把握し、今後の指導に役立てていく。</li> <li>・生徒のレベルに応じた基礎学力を育成するための指導（中学校の学び直し、振り返りを含む）の仕方を、各教科会で検討する。</li> <li>・牧高パワーアップアンケートを実施し、学年会、教科会で話題にすることによって改善策を見出し、各授業の担当者が授業改善に活かしていく。</li> <li>・教員の授業力を高めていくための活動を、教科会や教科主任会が中心になって、進めていく。</li> <li>・新しい情報が入り次第、速やかに教科会等へ伝達する。</li> </ul>
	<p>学習意欲の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。</li> </ul>	
	<p>基礎学力の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な確認テストを実施し、生徒の理解度を把握する。</li> <li>・学びの基礎診断(スタディサポート)を活用し、予習、検査、復習のサイクルをしっかりと構築させる。</li> </ul>	
	<p>授業力の向上 （学校評価アンケートにおける「先生方はわかりやすい授業を心掛け、工夫をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。</li> <li>・牧高パワーアップアンケートの結果を分析し、授業改善に役立てる。</li> <li>・新教育課程実施に向けて各教科で準備する。</li> </ul>	

<p>生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)</p>	<p>基本的生活習慣の確立</p> <p>情報モラル・情報リテラシーを高める指導の充実 (学校評価アンケートにおける「先生方は生徒のインターネット上のルールやマナーについて指導をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)</p> <p>交通事故防止と交通(社会的)マナーの指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・欠席の減少を目指す。安易な欠席、遅刻をさせない。</li> <li>5分前行動の定着。</li> <li>遅刻防止週間の設定実施。(学年との連携)</li> <li>授業規律の確保や怠学の防止。(適応指導)</li> <li>携帯、スマートフォンの校内における使用規定を遵守させる。</li> <li>情報モラルに関する講話やスマホPC使用ガイドライン7(啓発資料)を活用した指導を行う。</li> <li>情報リテラシーを高める指導として、生徒自らが課題を解決するための情報を収集整理し、それを発信させる指導を行う。</li> <li>登校時の自転車による事故防止教育</li> <li>迷惑行為等のマナー教育</li> <li>「学警連携」地域、警察との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングマインドを持ち、生徒の多面的理解に努め、状況に応じた個別指導を行うことに留意する。</li> <li>学年との連携を重視した指導体制を構築することに留意する</li> <li>安心して学べる教育環境の整備として、教務部と連携し、授業規律の確立にともなう指導体制を構築する。</li> <li>規範意識向上のために、あらゆる指導の機会をとらえ、効果的な啓発指導に繋げる。</li> <li>担任を中心に行われる保護者への連絡等の機会をとらえ、学校における生徒の多面的な情報提供とともに、家庭における状況理解に努める。</li> <li>地域、警察との連携した指導の機会を設定する。</li> </ul>
<p>進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)</p>	<p>3年間を見通した進路指導の推進 (学校評価アンケートにおける「先生方は必要な進路情報を提供していると思うか」の回答が、「かなり思う。」「そう思う。」合わせて70%を越える。)</p> <p>生徒の進路希望実現に向けての必要十分なサポートの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路希望状況・推移を十分に把握し、行事等の企画・運営に生かす</li> <li>教科・学年と情報を共有し、継続性のある指導を展開する。「学びの基礎診断」や模擬試験を有効活用する</li> <li>新カリキュラムに対応した大学入試等の変化を注視する</li> <li>教科・学年に成績等のデータ・情報を提示し、進路指導・学習指導をサポートする。担任が個々の状況を把握する手段として、各種デジタルのサポートの適時の活用を促す</li> <li>入学試験や就職活動・試験に向けたきめの細かい指導を行う。面接や小論文についても、1年次からプロセスを踏んで指導するようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路ガイダンスや模擬授業、総合的な探究の時間等を機能的に実施・運営する</li> <li>外部講師や上級学校との連携を密にして、講演、ガイダンスや模擬授業を受けられる機会を設ける</li> <li>進路指導室および進路学習室の環境や各種進路資料・入試問題・掲示物の整備をさらに進め、その有効活用を図る</li> <li>各教科・学年団の協力を得ながら、補習や「学びの基礎診断」、模擬試験の計画的、効率的な企画・運営を行う。また結果を共有する機会を設けて、以後の指導の改善を図る</li> <li>生徒・保護者に対して時宜を得た適切な資料やデータを提供し、進路について自ら調べ考え判断する力を養う</li> </ul>
<p>学校安全・保健 (生徒指導部) (保健厚生部) (総務部)</p>	<p>健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さや安全のための実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事のあり方をその都度見直し、安全・健康への意識を高め、命の大切さを自覚させるよう工夫する。</li> <li>災害時への適切な対処法について、</li> </ul>

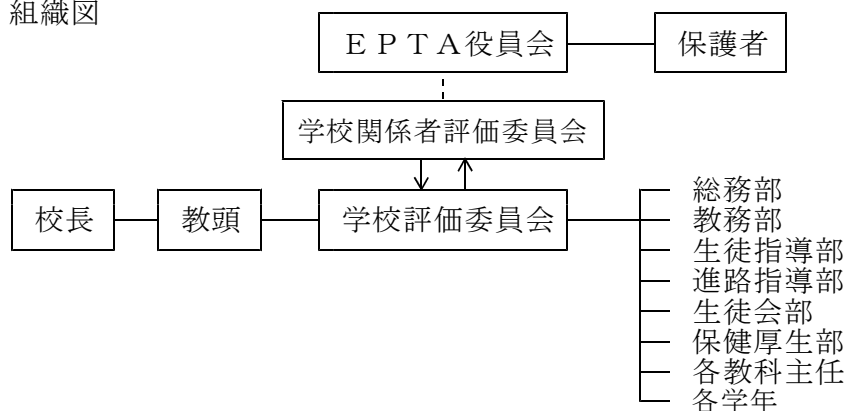
(各教科)	生活習慣改善のための啓発活動を行う (学校評価アンケートにおける「先生方は生徒の健康状態を把握するとともに、十分な相談活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	実践的な能力を育成する。 ・保健だよりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。	避難訓練・防災講話・L T等を通じて生徒の自覚を促す。またきずなネット等を利用して職員・生徒の安否確認訓練を実施する。 ・交通安全について様々な機会を利用して注意を喚起していく。
保護者連携 地域連携 (総務部)	家庭や地域社会との連携を図る (学校評価アンケートにおける「先生方はP T A行事に積極的に保護者に参加してもらえるように内容を工夫していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	・学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 ・学校のH Pの更新を随時行い、情報発信に努める。	・学校と保護者、地域住民や健全育成の団体等と連携を密にし、関係部署とも連絡を取りながら、きずなネット・H Pを活用し、情報発信に努める。 ・新たな試みとして、P T A行事等一覧を作成、配布して周知に努め、保護者の積極的な行事参加を促す。
学校行事 (生徒会)	学校祭の充実を図る (学校評価アンケートにおける「先生方は生徒が牧高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	・各種委員会等を活用して、生徒の要望・意見を吸い上げることに努める。	・体育祭では、縦割り群団制を導入し、縦・横の人間関係の絆の大切さを学べる機会を増やしていく。
図書館利用 (図書部)	図書館利用の充実を図る (学校評価アンケートにおける「先生方は魅力ある図書室作りに努めるとともに、十分な広報活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。)	・図書館行事の紹介や新着図書一覧の作成など図書だよりやH Pを活用し、情報発信に努める。	・読書離れが深刻になってきているが、読書の楽しさ・大切さを学べる機会として、図書館行事等を充実させていく。
いじめ・不登校対策委員会	いじめの未然防止に係わる取り組みの充実  いじめの早期発見、適切な事案対処	・朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 ・「学校生活に関するアンケート」(年2回実施)の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。	・学校生活アンケートを年2回実施した。その後の追跡調査においても各学年や部顧問等の迅速な対応(面談や指導)により、細かく対応がなされ、早期対応に繋がっている。今後もアンケート用紙など、生徒の実態に応じて改善をしていく。 ・面接週間だけでなく、普段からの声かけにより、生徒の些細なサインを見逃さない目配りができている。しかし、学校に適応できず、進路変更を余儀なくされる生徒が各学年にいた。相談部と連携を密に、早期対応できる体制づくりを。
教職員の健康管理	勤務時間の適正管理及び長時間労働による健康障害防止	・毎月の在校時間状況記録の結果の活用 ・ストレスチェックの結果の有効的な活用	・教職員間の相互の情報共有を密にしながら、メンタルヘルスの保持に努める。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思いやりとやさしさをもった心豊かな人間の育成</li> <li>・ 誰もが「よい授業」を探究する職場文化の維持</li> </ul>		

- ・ 新学習指導要領施行に向けた学びと最終点検
- ・ 「残る高校」を意識した、地域への積極的な発信と還元
- ・ 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり

## 令和3年度の定時制学校評価（目標）

### (1) 学校評価のための組織

ア 組織図



### (2) 学校評価の年間計画

4月	学校評価委員会において重点目標と具体的取組の設定
5月	EPTA総会にて学校評価の説明と外部評価の依頼
10月	前半の取組状況と改善策を自己評価
11月	これまでの取組状況と改善策
12月	保護者会にて外部評価の実施
1月	年度末評価
1月末	学校関係者評価委員会及びEPTA役員会にて評価結果の報告
3月	評価のまとめと来年度の重点目標の設定

### (3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 教育活動全体を通じて、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。</li> <li>(イ) すぐれた指導事例を学び合うなど「授業研究」の文化を醸成し、授業改善を推進する。</li> <li>(ウ) 新教育課程の変更にもなる諸問題を予見し、校内組織の調整など移行のための準備を進める。</li> <li>(エ) 生徒を取り巻く社会の変化に対応した、就労支援・進学支援のための4年間の進路指導計画を作成する。</li> <li>(オ) 教育活動の見直しや業務の精選に加え、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高め合い教職員の多忙化の解消に努める。</li> </ul>		
項目（担当）	具体的目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (教務部) (各教科)	多様な生徒への対応と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の生徒への対応の充実</li> <li>・外国人生徒への対応の一層の充実</li> <li>・基礎学力が不足した生徒への対応の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーや外部機関との連携を深める</li> <li>・外国人生徒教育支援員制度を活用する。</li> <li>・個々に応じた丁寧な指導を心がける。</li> <li>・保護者向けの公開授業を行う。</li> </ul>
	特別活動等による「在り方生き方教育」の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究(学習)への対応など、具体的な指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会や学校行事など、機会をとらえてタイムリーな指導を心がける。</li> <li>・講話について、意見の発表・交換のためのメモをとる指導をする。</li> </ul>
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者・早退者への指導の充実</li> <li>・欠席過多者への指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・職場との連絡を密にする。</li> <li>・学校全体で一律に指導する。</li> </ul>

	生徒情報の精選と共有化	・定期的情報交換会の開催	・個人面談、保護者会を充実させる。 ・情報は学校全体で共有する。
	交通安全指導の充実	・交通安全講話の実施 ・下校指導の実施	・全職員の協力に基づき指導する。
進路指導 (進路指導部)	進路意識の向上及び進路学習の充実	・進路講演会 ・進路情報の提供 ・面接指導の実施	・最上級生だけでなく、2年3年生徒にも積極的に情報を提供する。 ・就職試験受験結果報告書を活用する。
保健指導 (保健厚生部)	健康の増進と食中毒の予防及び相談活動の充実	・健康診断の円滑な実施と治療勧告 ・学校カウンセラーの効率的な活用	・家庭・職場との連絡を密にし、生徒の健康への関心を高めさせる。 ・カウンセラーの生徒向け講話、教職員向け情報提供を積極的に行う。
	環境教育の充実	・節電、省エネを通じた環境意識の高揚	・「地球といのちの環境教育」等を通じて自然との共生意識を深める。
いじめ・不登校対策委員会	いじめに対する措置	・いじめ防止講話の実施	・県方針に基づく組織的な対応を行う。
教職員の健康管理	健康障害防止の取組	・勤務時間の適正な管理	・長時間労働の実態を把握し対策検討する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導における個に応じた授業改善の推進について</li> <li>・生徒指導における基本的な生活習慣の確立について</li> <li>・外国人生徒教育支援員の活動状況について</li> </ul>		